週日の説教

金　大烈 神父　　2008 年 12 月 18 日（木）

《神様から難しい呼びかけがあったとき、どのように応えますか？》

今日の福音(マタイ 1･18－24)については、以前話した記憶がありますが、今日もう一度話したいと思います。今ここに、男性の方が何人かいますね。もし、心から大切に思っている婚約者の乙女がいて、自分でも全然思いつかないことが相手の女性の身に起こったとしたら、どのように考えますか。青年時代に戻ったつもりで考えてください。この人のためならば本当に命をかけられると思えるくらいの愛があるならば、相手が妊娠していることがわかった時、どのくらいのショックを受けるでしょうか。私ならば、相手もその女性も殺してしまいたいくらいの気持ちになるかもいしれません。ただ、ヨセフという人はやはり神様に選ばれた人だと思います。夢の中に現れた天使から、「男の子が生まれる。その子は、インマヌエルと呼ばれる神様の子である。聖霊によって身ごもったのだから信じてあなたの計画通りにしなさい。」と言われたことを信じ、目覚めてからその通りにしたと聖書に書いてあります。

これは現実的に可能なことでしょうか。裏切られた気持ち、どうしようもない気持ちで、ものすごく憎しみ恨みを感じている時、ただ夢を見ただけで、神様のみ旨であり、聖霊によって身ごもったのだろうと信じてそのとおりに従うことができるでしょうか。私ならば、ありえないことだと思います。その不可能なことを行われたからこそ、聖ヨセフなのです。

そのヨセフ様について私たちはあまり分かっていません。聖書を読んで不思議に思うことは、４つの福音書の中にヨセフ様から出された言葉は一つもないということです。
「…を告げられてその通りにした。」「…、連れてエジプトに逃げた」そのような書かれ方しかされていません。人間的に考えて、特にカトリック信仰という考え方で見ると、この人は人間ではないのではないかと思ってしまいます。自分の妻と床を共にしたことはなく、だからこそ、マリア様の美しさは更に輝きます。そのマリア様を守るためには、聖霊の働きもあったでしょうが、ヨセフ様の人間的な自分との戦いもものすごく激しかったのではないかと思います。その戦いがヨセフ様の十字架だったのではないでしょうか。そういう意味で偉大な聖人であり、聖家族を成し遂げられた方だと思います。

私たちにこのように極端な命令があったらどのように応えるでしょうか。日本にもたくさんの殉教者がいますね。その殉教者達も自分の心に極端な決定をしなければならない時を迎えたわけです。その決定は、命を捨てるのか、命のために生きるかです。極端な状況の中で、極端な決定を下した人々が殉教者達です。私たちは今、どこに行ってもミサに与ることができます。ご聖体も赦しの秘蹟もいただけます。そういう意味では少し甘すぎるのかもしれません。

今日、病者の秘蹟の為に幾つかのところへご聖体を持っていきました。その中に、第一次世界大戦の時に前橋で洗礼を受けられた方がいてその方から話を聞きました。その頃は月に２回だけミサがあったそうです。まわりにはカトリック教会はなく、昔はご聖体をいただく前には、断食しなければならない時代だったので断食のまま何時間もかけて前橋教会へ行ったそうです。冬になると教会の中は寒く、ふるえながら待っていたそうです。しかもミサはラテン語でした。そういう難しさの中でミサを捧げながら乗り越えてきたことを誇りのようにおっしゃっている姿を見て、信仰というのはある意味で難しさがなければすぐに消えてなくなってしまうものなのではないかと思いました。

私たちにも神様から、意識しないうちに、このように極端な要求を呼びかけられるかもしれません。そのとき、どのように応じるべきか、どのような勇気を持って返事をすることが出来るかを意識する時間も必要ではないかと思いました。

　私たちにも、これからいろいろな出来事が起こると思います。その出来事の中には、本当に嫌なこともあると思います。性格的にあわないこともあると思います。逆に本当に自分が好きな何かが与えられるかもしれません。そのとき、やはりイエス様の見せてくださった福音が中心になると思います。
　私たちは福音主義者です。福音が中心になる世界にしようとする神様の民です。今日の福音を通してそういうことを考えてみましょう。

ありがとうございました。